

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-327563

(43) 公開日 平成7年(1995)12月19日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

A 0 1 K 91/04

A 0 1 K 91/04

A

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全5頁)

(21) 出願番号 特願平6-155242

(22) 出願日 平成6年(1994)6月13日

(71) 出願人 000125967

株式会社がまかつ

兵庫県西脇市郷瀬町417番地

(72) 発明者 藤井 繁克

兵庫県西脇市郷瀬町417番地 株式会社が
まかつ内

(72) 発明者 菅野 昭男

兵庫県西脇市郷瀬町417番地 株式会社が
まかつ内

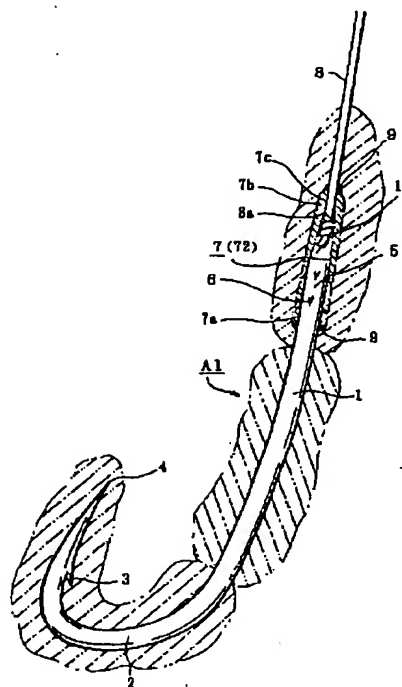
(74) 代理人 弁理士 森 義明

(54) 【発明の名称】 釣り針とハリスの接続構造

(57) 【要約】

【目的】 本発明の目的は、ハリスと釣り針とを自動機にて簡単に接続出来るようにして、ハリスと釣り針とを接続したものを大量生産できるようにする事。

【構成】 軸部(1)の上端部のチモト部分(5)に係合突起(6)が形成されている釣り針(A1)と、チューブ状で、その下端部(7a)の開口径より上端部(7b)の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部(7a)がチモト部分(5)に被嵌されて前記係合突起(6)が下端部(7a)内面に係合し且つその上端部(7b)にハリス(8)の端部が挿通され、ハリス(8)の端部に形成された結び目(8a)が前記上端部(7b)の細径開孔(7c)内周縁に係合するチューブ体(7)とで構成された事を特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 軸部の上端部のチモト部分に係合突起が形成されている釣り針と、チューブ状で、その下端部の開口径より上端部の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部がチモト部分に被嵌されて前記係合突起が下端部内面に係合し且つその上端部にハリスの端部が挿通され、ハリスの端部に形成された結び目が前記上端部の細径開孔内周縁に係合するチューブ体とで構成された事を特徴とする釣り針とハリスの接続構造。

【請求項 2】 軸部の上端部にて軸部より細径に形成されたチモト部分に係合突起が形成されている釣り針と、チューブ状で、その下端部の開口径より上端部の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部がチモト部分に被嵌されて前記係合突起が下端部内面に係合し且つその上端部にハリスの端部が挿通され、ハリスの端部に形成された結び目が前記上端部の細径開孔内周縁に係合するチューブ体とで構成された事を特徴とする釣り針とハリスの接続構造。

【請求項 3】 軸部の上端部のチモト部分にネジ部が形成されている釣り針と、チューブ状で、その下端部の開口径より上端部の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部がチモト部分に挿入され、前記ネジ部が下端部の内面に螺設された雌ネジに螺設し且つその上端部にハリスの端部が挿通され、ハリスの端部に形成された結び目が前記上端部の細径開孔内周縁に係合するチューブ体とで構成された事を特徴とする釣り針とハリスの接続構造。

【請求項 4】 軸部の上端部にて軸部より細径に形成されたチモト部分にネジ部が形成されている釣り針と、チューブ状で、その下端部の開口径より上端部の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部が細径のチモト部分に挿入され、前記ネジ部が下端部の内面に螺設された雌ネジに螺設し且つその上端部にハリスの端部が挿通され、ハリスの端部に形成された結び目が前記上端部の細径開孔内周縁に係合するチューブ体とで構成された事を特徴とする釣り針とハリスの接続構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、釣り針とハリスの接続構造の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】 磯釣りや船釣り又は川釣りなど釣りをを行う場合、餌を釣り針に取り付け、これをポイントに投入し、魚が餌に食いついた時に竿を合わせて魚を釣り上げるのであるが、そのタイミングがずれると餌だけを取られて逃げられる事が多い。また、上手く釣り上げたとしても魚が逃げようとして暴れ、ハリスに噛み付きハリスを痛める事が多い。このように傷ついたハリス使用していると、次に魚がかかった時にハリスを切断して逃げる事があるため、ハリスは小まめに交換する必要がある、

釣り人はハリス付きの釣り針を多数用意しておく必要がある。従って、供給者側としては、安価なものを大量に消費者に供給する必要がある。

【0003】 さて、従来では図 6 に示すようにハリス(23)と釣り針(B)の接続は、ハリス(23)の端部を軸部(20)基部からチモト(21)にかけて巻き付け、強く結ぶ方法が一般的である。しかしながら、このような作業は非常に細かい作業であり、しかも結び目(24)から外れないようにするために正確且つ堅固に結ぶ必要があり、手早く結ぶには相当の熟練を必要とする。また、このような接続作業を工場で行うとしても自動化が困難であり、人手に頼らざるを得ないのが現状で大量生産が出来ずコストダウンが困難であるという問題があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の解決課題は、ハリスと釣り針とを自動機にて簡単に接続出来るようにして、ハリスと釣り針とを接続したものを大量生産を可能にすることにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の釣り針(A1)とハリス(8)の接続構造の第 1 実施例は、請求項 1 に記載の通り「軸部(1)の上端部のチモト部分(5)に係合突起(6)が形成されている釣り針(A1)と、チューブ状で、その下端部(7a)の開口径より上端部(7b)の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部(7a)がチモト部分(5)に被嵌されて前記係合突起(6)が下端部(7a)の内面に係合し且つその上端部(7b)にハリス(8)の端部が挿通され、ハリス(8)の端部に形成された結び目(8a)が前記上端部(7b)の細径開孔(7c)の内周縁に係合するチューブ体(71)とで構成された」事を特徴とする。

【0006】 チューブ体(71)の上端部(7b)の細径開孔(7c)にハリス(8)の端部を挿通し、細径開孔(7c)の内周縁にハリス(8)の端部の結び目(8a)に係合した後に、軸部(1)の上端部のチモト部分(5)にチューブ体(71)の下端部(7a)を挿入し、係合突起(6)を下端部(7a)内面に係合する。これにより、従来のようなハリス(8)のチモト部分(5)への複雑な結び付け作業をなくすことができ、ハリス付き釣り針の大量生産が可能となるものである。なお、必要に応じて接続部分に接着剤(9)を塗布し、接続がより強固となるようにしてもよい。

【0007】 請求項 2 は、その第 2 実施例で、「軸部(1)の上端部にて軸部(1)より細径に形成されたチモト部分(5a)に係合突起(6)が形成されている釣り針(A2)と、チューブ状で、その下端部(7a)の開口径より上端部(7b)の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部(7a)が細径のチモト部分(5a)に被嵌されて前記係合突起(6)が下端部(7a)内面に係合し且つその上端部(7b)にハリス(8)の端部が挿通され、ハリス(8)の端部に形成された結び目(8a)が前記上端部(7b)の細径開孔(7c)の内周縁に係合するチューブ体(72)とで構成された」事を特徴とす

る。」事の特徴とする。

【0008】ここでは前記作用に加えて、チモト部分(5a)が軸部(1)より細径に形成されているので、チューブ体(72)の下端部(7a)を挿入して装着した場合、チューブ体(72)の外周面と軸部(1)の外周面とがほぼ面一になり、釣り針(A2)に餌を装着し、餌をハリス(8)側へ移動させ、複数の餌を釣り針(A2)に取り付けようとする場合及び釣り針(A2)側の餌が魚に取られてハリス(8)側の餌が釣り針(A2)側に移動する場合に前記チューブ体(72)が抵抗とならず、円滑に餌が移動する事になる。

【0009】請求項3は、その第3実施例で、「軸部(1)の上端部のチモト部分(5)にネジ部(6a)が形成されている釣り針(A3)と、チューブ状で、その下端部(7a)の開口径より上端部(7b)の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部(7a)がチモト部分(5)に挿入され、前記ネジ部(6a)が下端部の内面に螺設された雌ネジ(7d)に螺設し且つその上端部(7b)にハリス(8)の端部が挿通され、ハリス(8)の端部に形成された結び目(8a)が前記上端部(7b)の細径開孔内周縁に係合するチューブ体(73)とで構成された」事の特徴とする。

【0010】この場合は、単にチューブ体(73)の下端部(7a)を軸部(1)の上端部のチモト部分(5)に螺着するだけで両者を接続でき、ハリス付き釣り針の大量生産が可能となるものである。なお、前記同様必要に応じて接続部分に接着剤(9)を塗布し、接続がより強固となるようにしてもよい。

【0011】請求項4は、その第4実施例で、「軸部(1)の上端部に軸部(1)より細径に形成されたチモト部分(5a)にネジ部(6a)が形成されている釣り針(A3)と、チューブ状で、その下端部(7a)の開口径より上端部の開口径の方が小さく形成されており、前記下端部(7a)が細径のチモト部分(5a)に挿入され、前記ネジ部(6a)が下端部(7a)の内面に螺設された雌ネジ(7d)に螺設し且つその上端部(7b)にハリス(8)の端部が挿通され、ハリス(8)の端部に形成された結び目(8a)が前記上端部(7b)の細径開孔内周縁(7c)に係合するチューブ体(73)とで構成された」事の特徴とする。

【0012】ここでは前述同様前記作用に加えて、チモト部分(5a)が軸部(1)より細径に形成されているので、チューブ体(73)の下端部(7a)を挿入して装着した場合、チューブ体(73)の外周面と軸部(1)の外周面とがほぼ面一になり、釣り針(A3)に餌を装着し、餌をハリス(8)側へ移動させ、複数の餌を釣り針(A3)に取り付けようとする場合及び釣り針(A3)側の餌が魚に取られてハリス(8)側の餌が釣り針(A3)側に移動する場合に前記チューブ体(73)が抵抗とならず、円滑に餌が移動する事になる。

【0013】

【実施例】図1は本発明に係る第1実施例の釣り針(A1)に、チューブ体(71)を装着し、チューブ体(71)にハリス(8)を接続した時の正面図で、直線状に伸びた軸部(1)

と、軸部(1)の一端からフック状に延出したフトコロ部(2)と、フトコロ部(2)の先端部分に形成されたかえり(3)と、尖鋭に形成された針先(4)、並びに軸部(1)の上端に形成されたチモト部分(5)とで構成されている。前記チモト部分(5)は軸部(1)と同一外径で、その外周面に切り起こし状の係合突起(6)が多数形成されている。係合突起(6)の形状は、図から分かるように先端が尖っており且つ針先(4)側に向いている。

【0014】チューブ体(7)は図3、4に示すように円筒状のもので、第1実施例(71)では、内部に下端部(7a)に開口する下部通孔(10)と、上端部(7b)に開口する細径開孔(7c)とが形成されており、下部通孔(10)の開口径は細径開孔(7c)の開口径より大きく形成されており、両者の境目は段状になっている。

【0015】第2実施例(72)は下部通孔(12)が細径開孔(7c)に向かってテーパ状に形成されている例である。チューブ体(7)の形状は前記形状のみに限られるものではなく、要するに下部通孔(10)の開口径が細径開孔(7c)の開口径より大きく形成されており、後述するようにハリス(8)の結び目(8a)が細径開孔(7c)の内周縁に係合するようになっておればよい。チューブ体(7)の材質は特に指定されるものではないが、例えばウレタンパイプのように靱性と柔軟性とを有するような素材が好ましい。

【0016】ハリス(8)は一般的にナイロン糸が使用され、その端部を例えば8の字結びで『こぶ』が作られている。

【0017】次に、組み立て方法に付いて説明する。まず、チューブ体(7)の細径開孔(7c)にハリス(8)を挿通し、結び目(8a)が細径開孔(7c)の内周縁に係合する。続いて、チューブ体(7)の下端部(7a)をチモト部分(5)に挿入し、チモト部分(5)の係合突起(6)が下端部(7a)の内面に差し込まれて係合するようにする。最後に必要があれば、接着剤(9)をチューブ体(7)とハリス(8)の接続部及びチューブ体(7)とチモト部分(5)との接続部に塗布してこの部分を固める。これにより、ハリス付きの釣り針が形成されるもので、自動機による大量生産が可能となる。

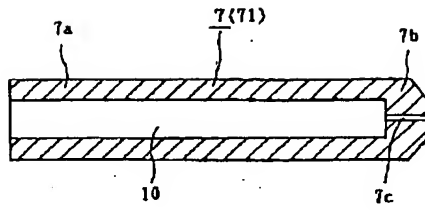
【0018】図2は、釣り針(A2)の第2実施例で、この場合は第1実施例(A1)と違って軸部(1)の上端部のチモト部分(5a)が、軸部(1)より細径に形成されており、チューブ体(7)の下端部(7a)を挿入して装着した場合、チューブ体(7)の外周面と軸部(1)の外周面とがほぼ面一になる。これにより、釣り針(A2)に複数の餌を装着しようとする場合に、最初の餌をハリス(8)側へ移動させ、2番目以降の餌を釣り針(A2)に取り付けようとする場合、及び釣り針(A)側の餌が魚に取られてハリス(8)側の餌が釣り針(A2)側に移動する場合に前記チューブ体(7)が抵抗とならず、円滑に餌が移動する事になる。

【0019】なお、チューブ体(7)の上端部(7b)の角はC面取り又はR面取りがなされている事が望ましく、こ

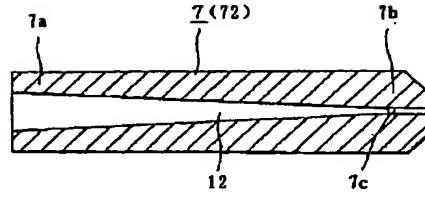
【図 1】本発明の第 1 実施例の使用状態正面図

(8a) …結び目

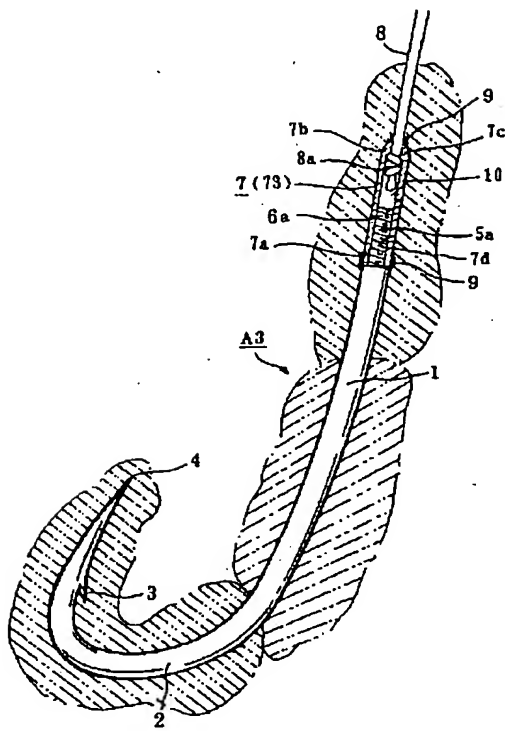
【図3】



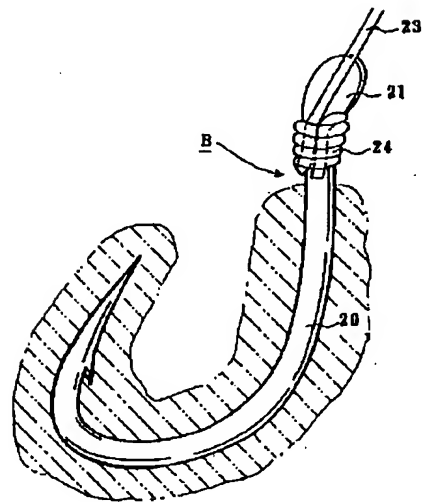
【図4】



【図5】



【図6】



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-197435

(P2000-197435A)

(43) 公開日 平成12年7月18日 (2000.7.18)

(51) Int.Cl.⁷

A 0 1 K 95/00
91/047

識別記号

F I

A 0 1 K 95/00
91/04

テマコード^{*} (参考)

Z 2 B 1 0 7
B

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号

特願平11-39010

(22) 出願日

平成11年1月7日 (1999.1.7)

(71) 出願人 596002228

稲葉 幸一

東京都目黒区中町2丁目39番12号

(72) 発明者 稲葉 幸一

東京都目黒区中町2丁目39番12号

Fターム (参考) 2B107 EB06 EB08 JA21

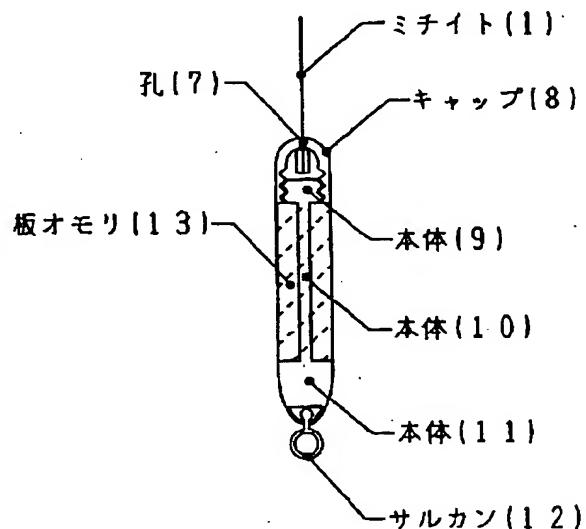
(54) 【発明の名称】 サルカン一体おもり

(57) 【要約】

【目的】 浮き交換によるおもり取り付け及び、調整を簡単且つ、外観上綺麗にすると共に、おもり (5) 及び、サルカン (6) にハリス (3) が絡みにくくする。

【構成】 本発明品は、キャップ (8)、本体 (9) (10) (11)、サルカン (12) で構成し、キャップ (8) は本体 (9) でネジで分解組立可能とし、サルカン (13) は、本体 (11) で、一体化とする。尚、キャップ (8) はその上部に孔 (7) を設ける。

本発明品の詳細図



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体(9)(10)(11)とキャップ(8)及びサルカン(12)を一体化した釣り用具。又は、同上でキャップ(8)を省いたもの。更に、同上本体(10)の部分空洞にしておもり(13)を空洞部に入れる構造とした物の組み合わせに依るもの。

【発明の詳細な説明】

【0001】【発明の属する技術分野】この発明は、ハリス(3)がサルカン(6)及び、おもり(5)に絡みにくくした、釣り用具に関するものである。

【0002】【従来の技術】従来、おもり(5)とサルカン(6)は別々にミチイト(1)に止めていた為浮き(4)を交換する度におもり(5)を調整する手間がかかり且つ、ハリス(3)がサルカン(6)及び、おもり(5)に絡みやすかった。

【0003】【発明が解決しようとする課題】おもり(5)の取り付け及び、調整を簡単且つ、外観上綺麗にし、ハリス(3)がサルカン(6)及び、おもり(5)に絡みにくくする。

【0004】【課題を解決するための手段】本体(9)(10)(11)及び、サルカン(12)を一体化し、キャップ(8)はネジを介し本体(9)の部分で分解組立出来る物とし、更にキャップ(8)の中でミチイト(1)を結ぶ。尚、板おもり(13)は本体(10)に巻き付けるものとする。

【0005】【発明の実施の形態】本体(11)とサルカン(12)を一体化し、キャップ(13)の中で、ミチイト(1)を結ぶ事で、結び目が隠蔽され且つ、本体(10)のスペース内できっちりと板おもり(13)が

巻ける事でハリス(3)は、サルカン(12)等に絡みにくくなる。以下、本発明品の実施例について説明する。キャップ(8)、本体(9)(10)(11)、サルカン(12)の一部又は、全部をステンレス、アルミ、鉄等の金属物質又は、硬質プラスチック等の化学物質加工品とする。更に、サルカン一体おもり(2)は、ミチイト(1)の取り付けの為、キャップ(8)と本体(12)をネジ等を介して分解組立可能な物とする。

【0006】【発明の効果】本発明は以上の様な構造で、これを使用する事によりハリス(3)は、サルカン一体おもり(2)に絡みにくくなり且つ、仕掛けの仕上がりが綺麗になり且つ、各浮き毎に合ったサルカン一体おもり(2)で、キャップ(8)を除く物を用意する事により浮き(4)交換時のおもり調整が不用になり更に、サルカン一体おもり(2)の上下流線形にし水の抵抗を少なく出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明品の全体図

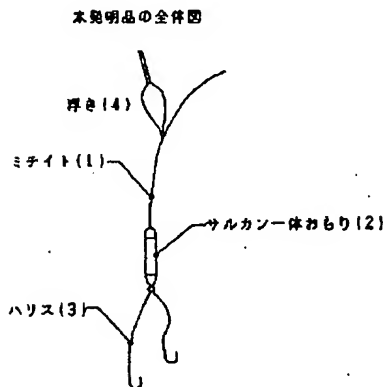
【図2】 従来品の全体図

【図3】 本発明品の詳細図

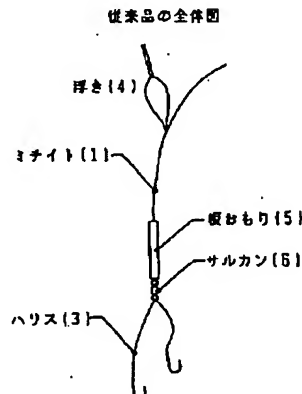
【符号の簡単な説明】

- | | |
|---------------|-----------|
| (1) ミチイト | (8) キャップ |
| (2) サルカン一体おもり | (9) 本体ネジ部 |
| (3) ハリス | (10) 本体軸部 |
| (4) 浮き | (11) 本体下部 |
| (5) おもり(従来品) | (12) サルカン |
| (6) サルカン(従来品) | (13) 板おもり |
| (7) 孔 | |

【図1】



【図2】



【図3】

